

視察報告

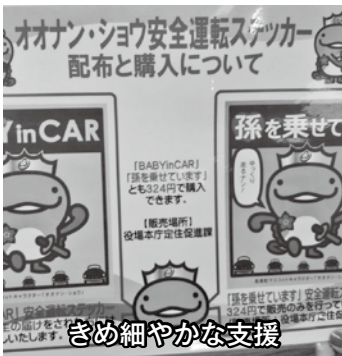
先進地に学ぶ

教育民生常任委員会は、令和元年11月25日～27日、島根県・広島県・岡山県の1市2町を行政視察しました。

日本一の 子育て村事業 島根県邑南町

保育料無償化が6年前から実施されている。子どもの体調不良時は民間病院で託児ができる。また、保育園に看護師が配置されているので、回復期でも保護者は安心して子どもを預けられる。

出産時の緊急医療対策も充実しており、出産から育児までの切れ目ない医療・保育体制が整備されている。進学時の奨学金制度については、町内での起業や就職者が返済の一部または全額が免除となり、成長した子どもが町内へ帰ってくる仕組みができています。



ICTでつながる 医療と介護 『NPO天かける』 広島県尾道市

電子カルテにより、患者のバイタル、服薬、既往歴などの情報が関係機関で共有されている。それによって、薬の重複や類似薬の削減になり、医療費の個人負担が減った。

市の負担も医療費1200万円の削減となった。既存のサーバーを利用することにより、運用面でも大きな支出は見られなかった。

健康対策事業 岡山県矢掛町

「これからは高齢者と健康対策の時代が来る」と、町を挙げて県内初の温水プールの誘致に力を入れ実現させた。

町営トレーニング施設には多種多様なマシンを設置し、使用料も1回100円と低価格で利用頻度も高かった。施設に専門員を置きさま



さまざまな健康対策メニューを提供し、多くの町民を巻き込んでいた。

町民人口の約3倍にあたる4万人の年間利用があり、町民はもとより近隣の市民の健康維持・増進と介護予防に大いに寄与している。

健診率向上対策も、戸別訪問をし受診表の手渡しや検診の必要性を伝え勧奨している。

保健師や栄養委員の有効的な活動が受診率の向上につながっている。

まとめ

子育て支援策では、支援を受けた者が将来帰町する仕組みの必要性を感じた。

ICTや健康対策事業においては、医師会の医師や矢掛町長の熱意が周囲を巻き込み効果を挙げている。

大山町もさまざまな活動がなされているが、参考にするべき点がたくさんあると思った。